

結末の美しさ

坂上弘

冬樹社

結末の美しさ.

昭和四十九年十二月五日第一刷発行

著 者 坂 上 弘

発行者 高橋直良

発行所 冬樹社

東京都千代田区神田神保町二の一八

電話東京二六四一〇三四六

印刷所 三容堂印刷株式会社

製本所 一重製本株式会社

定価は外箱に表記してあります

冬樹社版 一九七四

目次

I

志賀直哉の「和解」	15
文体との出会い	20
梶井基次郎	24
私の一篇	27
謎に満ちたもの	30
悪夢のイメージ	47
山川方夫	56
「愛のごとく」	71
仕合せをかく文学	76
白いボールの行方	80
「ひとりっ子」の新しさ	

II

安岡さんの周辺	97
梶井文学の親密さ	103
季節感について	106
手紙の効用	109
田中氏の「さすらい」	113
クウェンティン	116
イワンの独創性	120
二つのボナール展	122
秋元松代「きぬという道連れ」	125
「共同社会」と文学	129
狂言の魅力	133
CMをめぐる	136

帰らざるサラリーマン 139

街角から 142

"いかに書くか"への自問 146

「小説」のイメージ 150

「朝の村」のこと 153

「早春の記憶」のこと 155

一つの回想 157

藤の花 162

われらの時代 164

不安な状況のなかで 166

帰る音 169

カリンの花 173

朝子の視線 178

結末の美しさ 181

“批評の人”を弔う

186

学びつつあったこと

190

追悼

196

Ⅲ

山川方夫「愛のごとく」

203

島尾敏雄「島にて」

205

安岡章太郎「志賀直哉私論」

208

阿部昭「大いなる日」

212

田久保英夫「水中花」

217

北原武夫「霧雨」

219

黒井千次「走る家族」

223

金子昌夫「山川方夫論」

227

李恢成「砧をうつ女」

229

阿部昭「あの夏 あの海」

234

後藤明生「円と楕円の世界」

234

山田智彦「実験室」

236

山本道子「ベティさんの庭」

239

小川国夫「漂泊視界」

243

寺田透「北窓の眺め」

246

佐多稲子「ひとり旅ふたり旅」

249

高井有一「朝の水」

252

高井有一「蟲たちの棲家」

255

森敦「月山」

257

Ⅳ

親友の夢

263

帰化人の村

266

小説の中の好きな女

269

両親と私

270

不況とサラリーマン

273

あの頃

276

「三田文学」の頃

278

漁邨の犬

281

子供のいる路地

283

さがしもの

287

昆虫不足

288

子供と蝶と

291

焼け残った校舎

293

初出誌一覧

296

後記

300

装幀 高山峰治

結末の美しさ

I

